

NAVIGATION

— 進路指導部便り — 第10号 2022年1月28日

74回生 国公立大学前期日程まであと28日

発行 夢野台高等学校

進路指導部

大学入学共通テスト（本試）

平均点中間発表結果

大学入学共通テスト（本試）が終了しました。新聞ニュースで報道されていたように、特に数学と生物で平均点が大幅にダウンしています。2年目は難化するという今までの流れ（共通一次試験、センター試験）が、共通テストでも起こりま

した。この難化の流れは3年目も注意が必要です。2年生（75回生）も心しておいてほしいと思います。

大学入学共通テスト平均点

さて、本校では、共通テストに221名（85.7%）が出願しました。下に示すのは、大学入試センターが公表した平均点の中間発表と本校の平均点の表です。

前号では、1、2年生のみなさんには一度問題に目を通してほしいと述べましたが、見たでしょうか。私が授業に行っている1年生の2クラスでは、目を通したという人が2～3人しかいませんでした。とても残念なことです。今からでも、大学入試センターや予備校などのHPで問題に触れてほしいと思います。

科目	本校	中間集計	昨年度得点調整後	昨年度との差
国語	116.0	108.79	117.51	-8.72
数学Ⅰ・A	37.7	40.25	57.68	-17.43
数学Ⅱ・B	43.1	45.89	59.93	-14.04
英語計	122.4	123.85	114.96	8.89
世界史B	63.9	68.01	63.49	4.52
日本史B	55.2	54.92	64.26	-9.34
地理B	56.5	61.15	60.06	1.09
現代社会	73.8	63.13	58.4	4.73
倫理	59.0	63.70	71.96	-8.26

科目	本校	中間集計	昨年度得点調整後	昨年度との差
政治経済	—	58.98	57.03	1.95
倫理・政経	63.7	69.89	69.26	0.63
物理	60.1	61.97	62.36	-0.39
化学	45.6	49.45	57.59	-8.14
生物	48.4	50.08	72.64	-22.56
化学基礎	31.1	29.08	24.65	4.43
生物基礎	24.5	25.15	29.17	-4.02
物理基礎	33.3	31.46	37.55	-6.09

網掛けで示したのは、昨年度平均点から下がったマイナス幅ですが、今年度の落ち込みの大きさははっきりとわかります。

では、今年度のように平均点が下がると何が起こるかわかりますか？2013年度も今年度のように大きく落ち込んだのですが、次のような「連鎖」が起こります。

- 1 思っていたように点数が取れなかったと心理的に落ち込む。
- ↓
- 2 予定していた志望校を諦める。
- ↓
- 2' 落ち込みがひどい場合は、国公立大学受験そのものを諦めてしまう。
- ↓
- 3 受験生心理は同じで、「合格しやすそうな大学・学部」「昨年度倍率が低かった大学・学部」に受験生がどんどん流れ込む。
- ↓
- 4 「合格しやすそうな大学・学部」「昨年度倍率が低かった大学・学部」が、志願者でパンパンに膨れ上がって難化する。
- ↓
- 5 2月の私学受験で合格すると、そこで息切れ（満足？）して後期試験を受験しに行かない。
- ↓
- 6 後期試験がガラガラになり、大きな穴場の大学・学部が出現する。
- ↓
- 7 最後まで粘り強く挑戦し続けた受験生が、合格を手にする！

国公立大学を目指す者は、この1～5の「負の連鎖」にからめとられてはなりません。
平均点が低かったということは、他の受験生も点数が取れていないということです。条件は同じなのです。近畿圏だけでなく広く全国に目を向けて、自分の思う学びができる大学を探して最後まで粘り強くチャレンジしていきましょう！

特に、国公立大学の後期日程は試験当日の欠席率が毎年非常に高くなります（右表）。今年度のように平均点が下がると、上記「負の連鎖」の作用が働き、特に欠席率は上がります。最後まで粘れば合格の可能性は高くなります。最後に笑う者となれるよう、みなさんの健闘を祈ります！

また、1年生、2年生は、今のうちからしっかりと大学研究、学部学科研究をして自分が目指す大学・学部学科を見定めていきましょう。2年生については、来年度も今年度のような状況になることも考えられます。表面の「連鎖」をよく覚えておいてほしいと思います。



国公立大学後期欠席率一覧

ご覧のように、後期試験に受験に行くと、平均して10人に6人は欠席、受験するのは10人に4人ということです。さらに、成績上位層は

前期日程に合格して入学手続きしているため試験場にはいません。つまり、十分に勝負できるということです。

年度	2017	2018	2019	2020	2021
欠席率（国公立大計）	56.5	56.9	57.2	61.3	62.2
欠席率（近畿地区の主な大学別）	2017	2018	2019	2020	2021
滋賀大	51.2	50.9	52.1	58.9	61.0
京都教育大	55.2	56.4	47.3	66.9	65.4
大阪教育大	49.7	56.5	51.2	55.9	55.2
神戸大	56.7	57.1	57.6	60.8	60.1
兵庫教育大	70.0	66.8	61.9	66.6	60.4
奈良教育大	54.6	54.3	56.6	66.7	59.3
奈良女子大	54.3	58.4	56.2	58.1	62.7
和歌山大	45.0	49.1	49.0	52.8	56.3
京都府立大	49.4	49.2	52.1	50.9	56.1
福知山公立大	68.4	66.4	62.5	73.7	69.3
大阪市立大	46.2	48.4	45.1	50.2	47.4
大阪府立大	47.0	49.9	48.4	52.6	53.8
神戸市外国語大	61.3	72.0	64.6	69.8	71.0
神戸市看護大	53.1	62.4	55.3	63.4	68.9
兵庫県立大	55.4	56.2	56.6	59.6	58.3

（河合塾提供の資料より作成）

*大阪市立大と大阪府立大は、2022年4月より「大阪公立大学」となります。